



2005年6月12日(日)東海道を歩きました。3回目の東海道です。1回目は興津から由比、2回目は由比から富士、そして今回は吉原から片浜まで歩きました。2回目の終点と3回目の出発点が違うのはなぜ?そもそも、日本橋から三条大橋まですべて歩こうなんて思っていませんから。*日帰りで歩ける*景色がいい*名所がある*おいしい食べ物がある といった判断基準で適当につまみ歩きして楽しもうという魂胆です。今回、惹かれたのは「田子の浦」。“田子の浦に うち出でてみれば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ”という誰もが知っている和歌があります。これは、冬に詠まれた歌ですが、まっすぐに続く海と大きな富士山、その雄大な景色を見てみたいと思ったのです。残念ながら、大きな富士山を眺めることはできませんでしたが、想像以上に退屈な旧東海道を離れ、海岸へ寄り道して、松林の中を歩いたりして楽しみました。



東海道、3 回目にして賑やかに

6月12日(日)7時30分、小田急線町田駅に集合したのは、小野さん、桜井さん、加藤(忠)さん、板垣さん、横山さん、町田の6名でした。過去2回の「東海道」は、小野さんと町田の2人で歩きましたから、3回目にしてやっと賑やかになりました。前回と同じように、7時37分の小田急線で小田原到着8時31分。小田原駅では、8時38分の東海道本線への乗換がスムーズにいくか不安なところでしたが、クリアします。その後も、熱海駅、沼津駅でもあわただしい乗換をこなし、9時44分、予定通り吉原駅に到着しました。ここでゆっくりトイレ休憩です。

吉原駅では、感覚的に海に近い南口に出たいところですが、東海道は、蒲原宿から、海を離れ、富士川を河口から3キロほどの場所で渡り、岳南鉄道の本吉原駅(この辺りが吉原宿)を通り、再び海へ向かっています。東海道本線の吉原駅は海へ向かう手前にありますから、北口へ出て、東海道に入ることにしました。

東海道から田子の浦へ

駅前から2分ほどで、東海道に出ることができます。そして、5分ほどで、東海道本線を踏みきりで渡ります。しばらく歩くと右手に“毘沙門天”という寺が現れました。立ち寄ることにします。なぜか鳥居をくぐり、境内に入ると立派な建物が見え



てきました。それにしても妖しい雰囲気のお寺です。日本、中国、インド、ネパールなど東洋の建築様式を集めた建物がたくさんあるのです。なのに、正式名称は“妙法寺”、口をポカンと開けたままの気分で寺を出ました。



しばらく歩くと、広い道路にぶつかります。左方向へ行くと国道1号バイパス、右方向が東海道です。でも、この道は比較的新しい感じで、旧街道の面影がありません。じっと耐えて東海道を歩くのもよいのですが、せっかくなので、海を眺めながら歩くことにしました。適当なところで右折して海へ向かいます。たまたま入った道は行き止まりでしたが、上に道があります。左側の民家の庭から斜めに上れることがわかり、失礼して侵入して上の道に出ます。松林の中に車が1台通れるほどの遊歩道が続いていました。涼しくて車道となった東海道より快適





ですが、海は見えません。10分ほど進むと、右方向に防波堤の上につながる道を発見、防波堤の上に出ました。「おお～！」海です。防波堤の上はサイクリング道路になっていました。自転車、走る人、散歩する人で賑わっています。距離表示もしっかりしていて、多摩川の土手に似ています。しばらく潮風を楽しんで、再び東海道へ戻ることにします。



なにしろお店が無い！

防波堤を降りて、東海道に入り、しばらくすると“東田子の浦駅”が左側にありました。でも、駅前には何もありません。トイレは改札の中だったので、駅員さんに頼んで貸してもらうことにしました。時刻は、11時25分、ここから、しばらく東海道を歩きます。

東海道を歩くことが本来の目的ということもありますが、板垣さんと町田は、弁当を用意していなかったので、途中のコンビニで調達する必要があったのです。東海道は、東海道本線を踏



みきりで渡り、線路と並行して続きます。道幅は狭く（といっても片側1車線）なり、交通量も少なく、それらしい雰囲気になってきました。が、コンビニもお店も何もないのです。11時50分、ようやく



みつけたコンビニ(?)は、日曜でお休みでした。でも、自動販売機で缶ビールは買える。じゃあ食前酒をと、お金を入れても返却されてしまうのです。おかしいなあ？たまたま、車でここに買い物に来たおじさんが、「インターホンを押してからお金を入れると買えますよ」と教えてくれ、その通りやったら確かに買えたのです。未成年への販売防止の方法なのでしょう？こんなの初めて！ついでに「この辺にコンビニはありませんか？」「コンビニねえ、できてもすぐ潰れちゃうんだよ。もう少し先に1軒あると思ったなあ」缶ビールを飲み終えて、歩き出します。5分ほどで“ヤマザキストア”が左側にあり、営業していてホッとします。お店は狭く（いわゆるコンビニの半分かくらい）品揃えも薄く、“ここも危ないな”と思うのですが、目的の弁当は売っていたので助かります。お店の人に海へ出る道を教えてもらい、海へ向かいます。

なつかしい“沼津アルプス”

教えられた細い路地を行くと、東海道本線の踏切があり、直進すると防波堤の上へ道が続いていました。12時30分、海を眺めながら昼食です。左方に伊豆半島が見え、陸に近い場所に“沼津アルプス”らしき山々が確認できます。“沼津アルプス”は、2001年12月に制覇した5山7峠のハードなコースでした。そして、翌年の9月に逆ルートで挑んだのですが、コースミスと暑さで途中下山を余儀なくされて、沼津港の寿司屋に駆け込んだのでした。山が見えても「また行こう」とは誰も口にしませんでした。





桜井さんのやる気を抑えつつ

13時15分、食事を終えて歩き始めます。防波堤を降りて、涼しい松林の中にある遊歩道を進みます。どうやら、この遊歩道は、沼津の千本松原まで続いているようです。沼津までの距離は、6キロほど。一方、最初の計画でのゴール原駅までは2キロほど。こうなると元気な桜井さんと横山さんは、沼津まで行く気満々で足早に先を歩いて行ってしまいました。6キロ歩くとなると、約2時間。途中での休憩などを考慮すると、沼津駅に着くのは、16時くらいになりそうです。また、山道ならいろいろな筋肉を使うのですが、平坦な道を歩く場合、同じ筋肉しか使わないので、想像以上に疲れるものです。沼津まで行こうという勢いは否定しないものの、原駅の次の片浜駅で止めようと町田は決断しました。

「じゃあ、沼津まで行きます」とは言わなかったのが、先を歩く桜井さんと横山さんも後方集団の位置関係を気にしながら歩いたようでした。過去にも、桜井さんのやる気満々を抑えてしまうことがありましたからネ。昨年4月の「丸山ハイキング」で日向山をパスしたり（この時は小野さんの痙攣があったため）9月の「旧正丸峠ハイキング」でも、二子山をパス（あまりの暑さのため）しました。



目指せ“西友”

原駅付近を通り過ぎ、そろそろ、片浜駅辺りかなと思われる場所で、ちょうどウォーキングを始める夫婦に道を尋ねました。確かにこの辺りから遊歩道を離れても良さそうな場所です。加藤さんが、桜井さんの携帯電話に電話したところ、すぐに気付いて電話で話します。桜井さんたちは、すぐ先の片浜駅への標識がある場所で待機していました。そして、先に歩き始めたさっきの夫婦にやはり道を訊いたようで、この先の西友から駅に向かうのがわかりやすいと教えてもらったのでした。「じゃあ、西友まで」と言いながら町田は、西友の場所の確認のため、車道に出て歩きました。車道に出たところに信号があり、次の信号の間に西友はありました。遊歩道を進んだみんなも、西友に気がつくと、草むらを横切って車道に向かって来ました。14時30分、西友到着。今日初めてのお店らしいお店が西友でした。もちろん、西友で缶ビールを買って、乾杯です。西友の前のベンチでゆっくりくつろいでいると、西武秩父の仲見世が思い出されます（実際には全然違うのですが）。西友から片浜駅に向かって渡った車道は“旧東海道”となっていました。駅に着いたのは、15時15分でした。こうなると、やっぱり、無理して沼津まで行かなくて良かった！と思いますが…。次は、ここから、三島まで歩きます。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
板垣実	194-0032	東京都町田市本町田 2577- ホ -22-101 042-793-1271
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662

